

4/30~5/6 石川民医連の第8次震災支援

なんぶやすらぎの乙丸美音さん
酒井専務も医学生とともに出発



第8次の震災支援として、やすらぎ福祉会からは、なんぶやすらぎ介護職の乙丸美音さん、そして、医学生が参加することで急遽同行が決まった酒井専務の2人が参加。小雨が降る中、見送りに集まった皆さんの激励を受け、元気に出発しました。



乙丸さんからの報告より

『若い人たちが伝えていかなきゃダメだよ』と逆に諭されました

支援一日目

避難者、支援者ともに少なくなり、こじんまりした印象です。ケア内容は見守りと、身の回りの細々としたお手伝い程度で、時間の流れがのんびりとしています。

1ヶ月半以上が経ち、避難者の皆さんも落ち着いておいでて、ご自分から地震や津波のことを話してくださいます。

戦争を経験されてる方は強いです。

「若い人たちが伝えていかなきゃダメだよ」と逆に諭されました。坂口施設長に持たせてくれた折り紙類は初日から大活躍してます。

入居者さんから『自分も何かできて嬉しい』

やすらぎホーム2階の入居者さんが、被災地の方々へ、自分にも何かできることはないかと考え、手作りの手芸品を贈ることに。「自分も何かできて嬉しい」と喜ばれていました。